マンション窓断熱改修講座初の窓ガラス交換のケーススタディーを紹介した

施工業者らの話を聞き、合意形成や工事の進め方、補助金の活用など情報を発信した。松本社長は「本講座で伝えたいのは、『こうした情報を知っていればそういう判断をしなかった、問題は起きなかった』ということをなくしたいという思いから。窓の困り事の解決策には幾つか選択肢があるので、自宅には何がふさわしいのかを知るヒントにしてもらいたい」と締めくくった。

松本光司横浜市建築局住宅部住宅政策課長があいさつ。「住宅政策の大きなポイントの一つが住まいの性能を高めることで、資産価値・住む人の満足度を向上させることができる。住まいの性能は大きく耐震性、バリアフリー性、省エネ性がある。省エネ・健康・防災の面からも、省エネ性が一番効果が高い」と説明し、「窓を含めた開口部は、エネルギーが無駄に漏れ出すバケツの穴だといわれている。力を合わせてバケツの穴をふさいでいくためには、マンション住民の合意形成の進め方が重要となる」と指摘。横浜市内には築40年以上の共同住宅が6万4000戸あり、2030年には約2・4倍、2050年には5・3倍に増えるという試算結果を示し、「マンション再生にリフォームの工事の流れを説明した。

意見交換の内容は次通り。

―窓断熱改修のきっかけは。

木村　結露がひどくいい解決方法がないかと思っていた。管理会社から紹介されたセミナーは枠をとっぱらって入直すという大掛かりな事を紹介され、工期・用面で難しいと諦めてた。理事会で議論したところ、他の住民も結露困っていることが判明付き合いのある1級建士に内窓設置を教えて

テックス内）の藤代慶美氏が司会を務め、改修を実施したマンション管理組合の木村和夫理事長、施工を担当した井上の井上博史社長、ガラスを供給したマテックスの安田仁也相模原営業所営業課係長、同講座事務局コーディネーターでマンション管理組合元理事長の岸一正氏らが参加。改修のきっかけ、合意形成で難しかったこと、窓改修後のメリット・デメリットについて意見を交換した。

今回の改修事例は、相模原市にある10階建て・13戸のマンションで、築24年目に全戸の窓でガラスを真空ガラスに交換。2018年度の高性能建材による住宅の断熱リフォーム支援事業で約20

HI―LINE22

ビルのガラスひずみ補正

新築で交換できないとき

HI―LINE22（横浜市中区、平井宏治社長、0120・544・022）は「Glassアカデミー」を運営している。ガラスに傷が付くと、諦めるかガラスを交換するかの二者択一だったが、「第三の選択肢としてほしいという依頼に対応した。

新築ビルの現場で溶接の火花が飛んでガラスが溶けたが（溶接焼け）、フィルムを貼ってから当該箇所が浮いて気泡になり気が付いた。「ガラスを磨いて平らに近付ければ正常にフィルムが貼れるだろう」と考え、自分たちでガラスを部分的に研磨。溶接焼けは少しだけ薄くなり、フィルムも浮かずに貼れたが、研磨した箇所にひずみが生じてしまった。現場は新築ビルの高層階で、足場は外れていてガラスは交換できないという状況だった。

作業前にはしっかり養生。作業中は、熱くなるガラスの温度を測定器で計測・管理しながらひずみ箇所の外周からゆっくり丁寧に研磨。同社のガラス再生技術がさえる。

作業風景は動画配信サービスユーチューブの#GlassRenewalServiceで確認できる。

ひずんだガラス

㊤しっかり養生㊥㊦ガラスの温度管理をしながら研磨

抗ウイルス性付与

フィルム

アイカ工業

抗菌・防曇・防汚・防眩も

アイカ工業（名古屋中村区、小野勇治社長）は、表面に抗菌・抗ウ